



ナガバノイシモチソウ

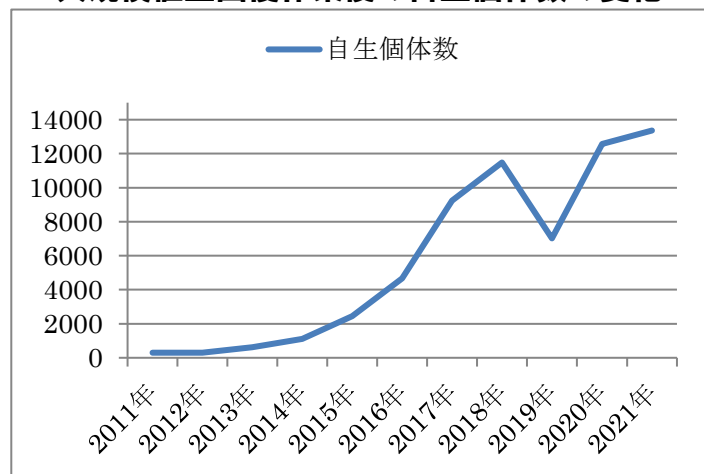
1、2021年のナガバノイシモチソウ-2

愛知県指定天然記念「豊橋市のナガバノイシモチソウ自生地」では、7月末日頃を基準に自生個体数の計測を20年以上続けています。今年は開花も終わりましたので、一年分をまとめて報告します。

1) 自生個体数の変化

ナガバノイシモチソウは自生個体数、最高開花数ともに昨年最高記録を更新しました。今年の個体数は基準日の7月30日で、**13,363**個体になり、昨年同時期の**12,565**個体の約**1.06倍**になりました。昨年より微増という状態ですが、全体としてはまだ右肩上がりが増えてきている状態です。しかし、これまでの増え方を見ると緩やかなS字カーブのようになっており、そろそろピークが近づいているのかもしれませんが、なお、9月30日には**17,450**個体になり、7月30日より約30%増えました。

大規模植生回復作業後の自生個体数の変化



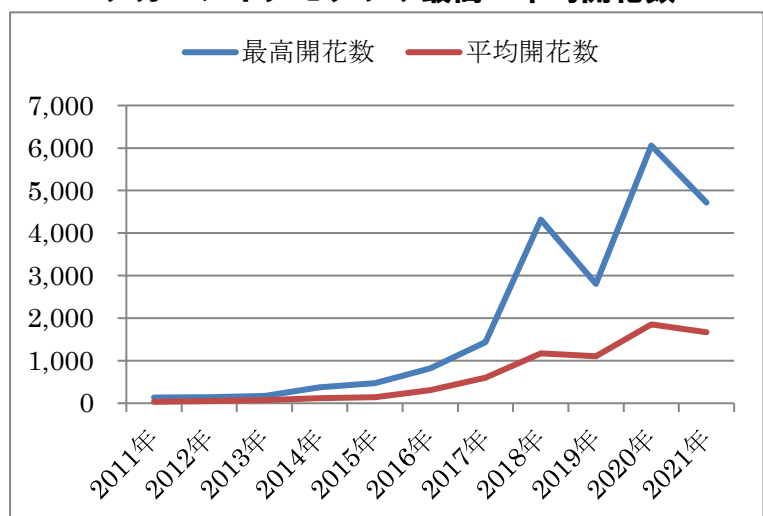
2) 開花数の変化

今年はナガバノイシモチソウの一日の最高開花数が**4,717輪**となり、2020年の**6,057輪**の78%に減りました。平均開花数は**1,673輪**となり、2020年の**1,854輪**の90%になりわずかに減りました。延べ総開花数は昨年初めて20万を超え**203,921輪**になりましたが、今年は**192,430輪**になり、わずかに減りました。

個体数は微増でしたが、平均・最高開花数は若干の減少でした。個体数の増減と必ずしも連動して

いないようですが、原因はよくわかりません。しかし、増減しながらも全体としてはまだ増加傾向にあります。来年、最高開花数が増えれば一年ごとに増減を繰り返しながら推移するということになりますが、来年も観察を続けたいと思います。

ナガバノイシモチソウ最高・平均開花数



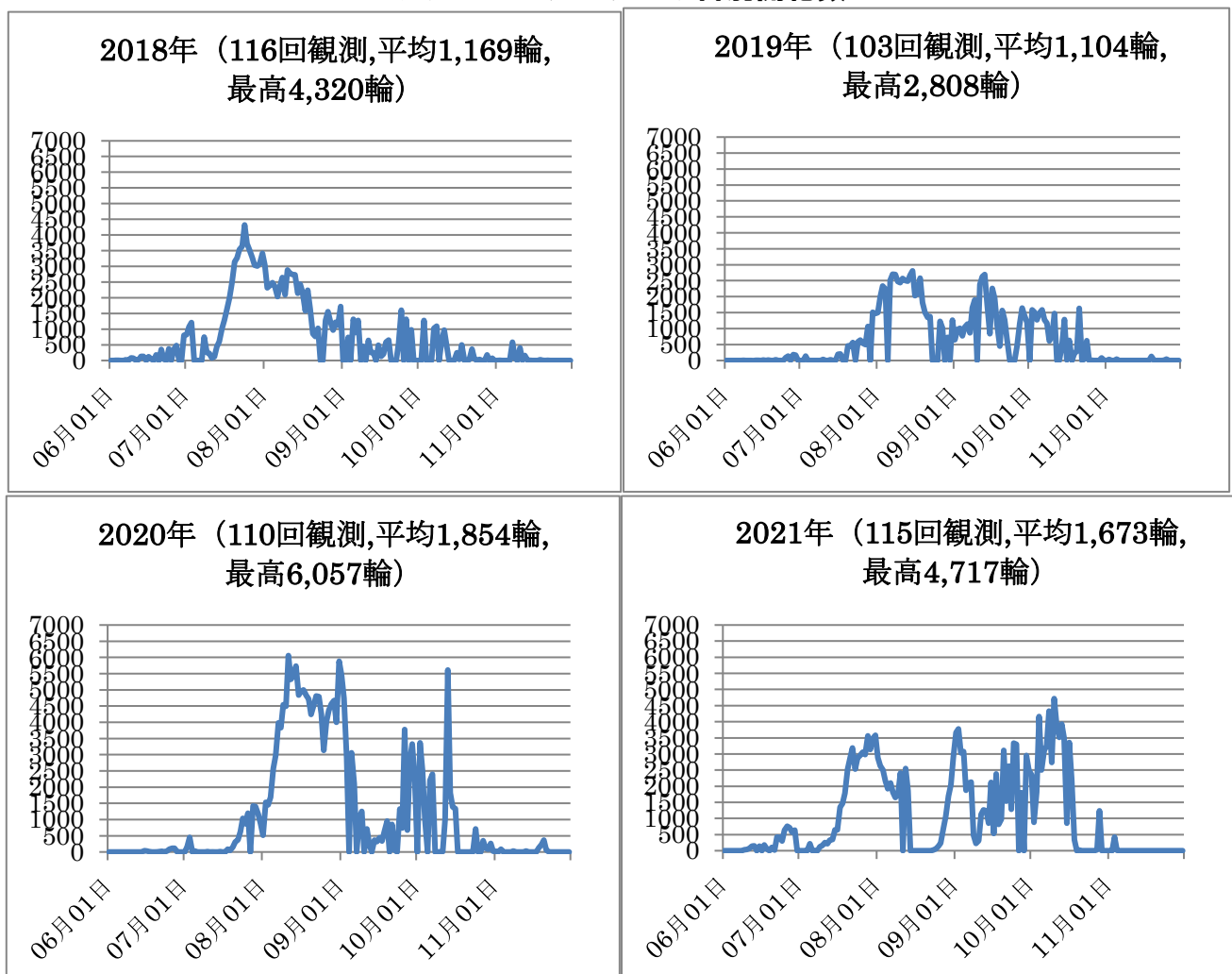
3) 開花のパターン

下の表はナガバノイシモチソウの一日ごとの開花数を示したグラフですが、開花数が増えた2018年から今年までの4年間はかなり似た開花パターンになっています。この4年間は雨が多く降って開花しない日以外は、ほぼ毎日開花数の調査を行いました。7月の下旬から8月にかけては、いずれも毎日多くの開花数を記録し安定して開花しています。8月下旬から10月にかけては一定量の花は咲きますが、短期間で増減を繰り返しているようで開花数は安定していません。つまり、開花期の前半と後半で開花パターンに明確な違いが見られることが分かりました。

2021年は8月の月上旬から中旬にかけて2週間ほど雨が続き開花が見られない時期が長く続きました。おそらくナガバノイシモチソウの成長が止まっていたと思われます。その後、開花数は持ち直し、10月10日に4,717輪の最高開花数を記録しましたが、9月上旬以降は短期間で増減を繰り返していました。8月の長雨が無かったら、安定した開花期間が続き、2020年よりもっと大きなピークになったかもしれません。

ナガバノイシモチソウがなぜこのような開花パターンを持っているのかはわかりませんが、花茎の出現パターンとその数、一つの花茎に付く花の数と関係しているのかもしれませんが、熱帯起源の植物で夏の暑い時期が適しているため、7月下旬から8月には連続して多く開花を続け、9月上旬以降に気温が低くなると開花が衰退し、不連続に短期的増減を示すのかもしれませんが。来年の開花期に花茎の付き方と花の数を計測すれば、何らかの傾向が明らかになるかもしれません。

ナガバノイシモチソウ日別開花数



4) 各地点での状況

今年も第1～7地点で白くなって集中する群落が見られました。右の写真は自生地全体の写真で西から東を見たところです。薄い黄緑色で白っぽくなっている部分が、ナガバノイシモチソウが集中している群落です。手前の第1地点から奥の第7地点にかけてすべての地点で集中した群落が見られました。

第1地点の写真は、第1地点の中央部を拡大した写真です。中央は土が見える裸地でナガバノイシモチソウ

は少なく、周辺に多く見られます。右奥のやや茶色になっているところはヤマイが優勢な群落で、ナガバノイシモチソウはまばらに分布しています。



ナガバノイシモチソウ自生地全体 (2021年9月3日)



第1地点 (2021年7月28日)



第2地点 (2021年7月28日)



第3地点 (2021年8月22日)



第4地点 (2021年8月22日)

第2～7地点にも白く集中したところがあちこちに見られました。第7地点でもスプリンクラーより下流で大きな群落になりました。この部分は2015年に耕運機で攪拌して天地返しをした地点（葦毛通信 No. 112 参照）です。作業の翌年にはナガバノイシモチソウはほとんど発芽せず、攪拌しなかった周辺から種子が流入して徐々に個体数を増やし、作業後5年目の今年は大きな群落に再生しました。攪拌を行わなかった他の地点でも順調に大きな群落が出現しており、天地返しには効果が無いことが確認できました。



第5地点（2021年7月28日）



第6地点（2021年7月28日）



第7地点（2021年7月28日）



ナガバノイシモチソウ（2021年7月28日）



ナガバノイシモチソウ開花状況（2021年7月28日）